

## 生体認証のセキュリティ

～指紋認証や静脈認証はどこまで安全なのか～

平成 25 年 10 月 12 日 (土)

理学部 准教授 井沼 学

近年、多くの銀行の ATM に、指や手のひらをかざして本人を確認する生体認証システムが導入されています。ATM で使われているのは、指や手のひらの中の血管（静脈）パターンを近赤外線カメラで読み取って、キャッシュカードの中に保存された登録パターンと照合する静脈認証と呼ばれる生体認証です。他にも、携帯電話（スマートフォン）の持ち主認証、病院の医師認証（電子カルテ）、オフィスやマンションの入館者認証、会社の出退勤管理など、私たちの生活の様々な場面で、指紋や顔や静脈を使った生体認証が利用され始めています。海外では、国民の指紋や顔などを登録して、戸籍管理や社会保障サービスなどに利用している国が増加しつつありますが、日本でも、行政サービスや社会保障サービスに生体認証が導入される時代がやってくるかもしれません。

体の一部を使って本人確認を行う生体認証は、カードや暗証番号と異なり、無くしたり忘れたりする心配がないので大変便利です。そのうえ、個人に固有の指紋、顔、静脈パターンなどを使うので、より厳格な本人確認ができる安全なイメージを与えます。はたして、生体認証は本当に安全なのでしょうか。銀行の静脈認証キャッシュカードならば、万が一、それを落として誰かに拾われたとき、あるいは盗まれたとき、他人の静脈パターンが自分のものと一致して預金を引き出されてしまうということは起こらないのでしょうか。

今回の講座では、生体認証の安全性に関する最新の研究内容を紹介するとともに、生体認証を安全に利用するにはどのようなことに気をつけなければならないのかについてわかりやすく解説します。